

## 由緒ある神社が時代劇の舞台に

～油日神社で映画ロケ～

**今** 秋公開される映画「大奥」の撮影が、4月15日と17日の2日間、油日神社で行われました。

国の重要文化財にも指定されている同神社。松皮葺の本殿や拝殿、板張りの回廊というめずらしい造りが時代劇のイメージに合うことから、今回の舞台に選ばれました。

撮影は、俳優の二宮和也さんや堀北真希さんをはじめとするキャストやスタッフなど総勢100名で、早朝から行われました。15日は克蘭クインとあつて祈禱が行われ、撮影の無事と映画のヒットを祈願。花冷えの中、恋人同士の2人が別れるシーンなどが撮影され、境内は緊迫した空気に包まれました。



▲油日神社境内で撮影された映画のワンシーン

## 悲運の城主 長束正家をしのぶ

～阿迦之宮例祭～

**水** 岡山城三代目城主の長束正家を供養する阿迦之宮例祭が4月17日、城跡のある古城山山頂で営まれました。

正家は豊臣秀吉の重臣で、1595年に岡山城主に任じられましたが、1600年の関ヶ原の戦いで敗れて自害したといわれています。この間、水口は城下町として整備され、その後の発展の基礎が築かれたことから、阿迦之宮は町の守り神としてまつられています。

例祭は、春の観光シーズンの幕開けを告げる行事として市観光協会が毎年開催しており、この日は中嶋市長や正家の子孫の花輪氏も参列しました。山伏姿の行者が大護摩に点火し、読経が流れる中、参列者は静かに手を合わせました。



▲長束正家をしのんで営まれた例祭

## フィリピンから派遣団来訪 職業研修などで交流

～ロータリー財団研究グループ交換～

**国** 際ロータリー財団の教育プログラム、研究グループ交換(GSE)で、水口ロータリークラブが、フィリピンからの派遣団を受け入れました。

団員は、薬剤師や医師、教員など5名で、4月19日から24日まで、水口ロータリークラブの会員宅にホームステイして日本の生活を体験しました。異文化に触れながら専門職業人としての技能や指導力を磨くのが目的で、滞在中は、病院や薬局、学校を訪れたほか、水口曳山祭や、忍者屋敷などの見学もしました。

21日には、市長を表敬訪問。中嶋市長は一行を歓迎し、甲賀市をPRしながら和やかに交流しました。



▲市長を表敬訪問したフィリピン派遣団

## 元五輪メダリストが小学生を指導

ジュニアソフトボールスクール & ピッチングクリニック

**元** 五輪選手によるソフトボール教室が開催され、市内をはじめ、県内のスポ少チームから86名が参加しました。

この教室は、ソフトボールの普及と、正しい技術習得や子どもたちの心身の健全育成をめざして、県体育協会などが毎年開催。この日は、アトランタ五輪代表の桑原正子さん、シドニー五輪メダリスト伊藤良恵さん、北京五輪メダリスト藤本素子さんの3名が技術指導をしました。

参加した団員一人ひとりが、選手から直接指導を受け、投球や捕球、打撃の正しいフォームを学んでいました。



▲伊藤選手から投球フォームを教わるスポ少団員

## 犯罪防止をめざし 地域安全パトロールへ出発

～第四水口台自警団～

**水** 口町山の第四水口台区で、「自分たちの地域は自分たちで守ろう」と、自主防犯のための新たなパトロール団体が結成されました。

4月18日の出発式には、自警団員や区民、また隣接する桜ヶ丘区の自警団員ら50名が出席。団長の力強い掛け声で、青色回転灯が装着された車両に一斉に搭乗した団員の表情は引き締まり、参加者の激励を受けながら、パトロールに出発しました。

青色防犯パトロール活動は目につきやすく、犯罪防止に極めて有効といわれています。今後は桜ヶ丘区自警団と協力し、隣接小学校区や中学校区を巡回して安心・安全なまちづくりのために活躍されます。



▲青色回転灯を付けた車両がパトロールに出発

## 黄色く染まった畑で 園児が菜の花摘み

～NPO法人「鹿深の杜」～

**N** PO法人「鹿深の杜」の菜の花畑に4月30日、伴谷保育園と伴谷幼稚園の年長児約100名が訪れ、菜の花摘みを楽しみました。

環境と農業の融合をめざし活動している「鹿深の杜」では、農家3戸の休耕田約40アールを借りて菜の花を栽培しています。この日、招待を受けて訪れた園児たちは、春の太陽を浴びて黄色に輝いた畑に歓声をあげながら、菜の花のにおいが漂う畑の中へ。自分たちの背丈より大きく育った菜の花を、先生に手伝ってもらいながら摘み取りました。

両手いっぱい菜の花を抱えた園児たち。おうちの人の素敵なお土産になったことでしょう。



▲満開になった菜の花を摘み取る園児たち